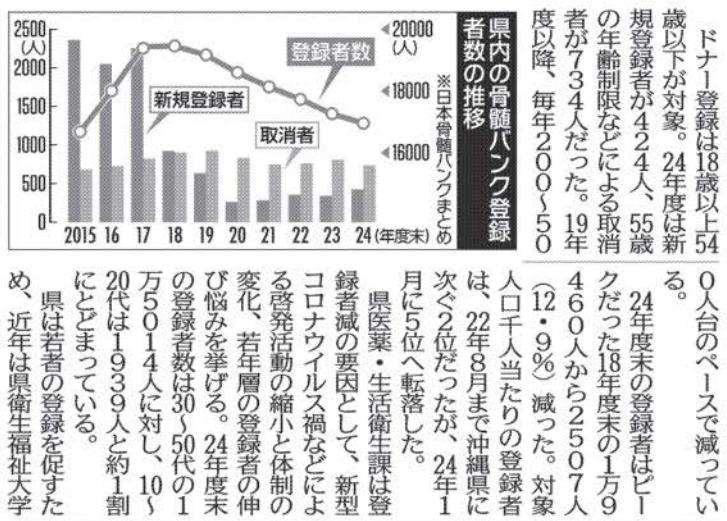


2025年10月28日付・下野新聞1面



県医業生活衛生課は登録者減の要因として、新型コロナウイルス禍などによる啓発活動の縮小と体制の変化、若年層の登録者の伸び悩みを挙げる。24年度末の登録者数は30～50代の1万5014人に対し、10～20代は1939人と約1割にとどまっている。

校や宇都宮大などの学園祭で登録を呼びかけている。本年度は新たに県内の学生向け就職情報誌に骨髓バンクのPR広告を載せ、認知度向上を図る予定だ。

県内医療機関で実施されたドナー移植数はこの10年間、20～30件台をほぼ横ばいで推移している。同課は「持続可能な制度にするた

め、若いドナーの確保へつながると期待されている。

献血会場へ出向かず登録できるよう、日本骨髓バンクなどがオンライン登録と口内の検体を採取して郵送することで完了する「スマップ検査」を26年度から導入できるよう準備している。時間や場所の制約が減るため、若いドナーの確保へつながると期待されている。

設問

【1】記事に照らして、2024年度の県内の骨髓ドナー（提供者）がなぜ減少したのか、次のようにまとめました。空欄に当てはまる言葉を、本文中から抜き出して書いてください。

「(1) による登録取消者に (2) が追いついていないため」

【2】記事に照らして、下の①～④の正誤を○×で答えしてください。

①県内のドナー登録者はピーク時に2万人を超えていた

②県内のドナー登録者は、対象人口千人当たりの登

高校生向け 手 組

記事は加工しています

県内登録者24年度末

白血病患者らに骨髓液などを提供する県内の骨髓ドナー（提供者）登録者は2024年度末時点
で、前年同期比310人（1・8%）減の1万6953人となり、ピークだった18年度末から6年
連続で減少したことが27日までに、県への取材で分かった。年齢制限による登録取消者数に新規登
録者数が追いついておらず、1万7千人を割り込むのは9年ぶり。若者への浸透が十分でないこと
から、県は学生向けの啓発に注力している。10月は骨髓バンク推進月間。
ひよこさまさやか

1万6953人、若者が低調
筋ドナード年連続減

登録者で過去に全国2位だった

③県内のドナー登録者は、2019年度以降、毎年500人以上減っている

④県内のドナー登録者は、2018年度は新規登録者が登録取消者を上回っている

【3】記事に照らして、登録者が減少した主な要因は何と推測しているか答えてください。

【4】記事に照らして、本文の傍線部にある現状を踏まえて、あなたは骨髓バンクのドナー登録について、今後どのような施策が必要だと思いますか。本文中にある「オンライン登録」「スワップ検査」の語句を用いて自由に論じてください。